

3. 丹沢のレッドデータ植物群落

田中徳久¹⁾

Red Data Plant Community in Tanzawa Mountains

Norihisa Tanaka

要 約

田中 (2006) で報告されている神奈川県のレッドデータ植物群落より、丹沢から報告されている、あるいは報告される可能性のある植物群落を抽出し、神奈川県内で丹沢のみに産するものを加え、丹沢のレッドデータ植物群落として、単一群落 95 群落、群落複合 11 群落を報告した。丹沢のレッドデータ植物群落は、もともと希少であった植物群落や、レッドデータ植物を構成種とする植物群落のほか、大気汚染などによる林冠木の枯死やニホンジカの過度の採食による林床植生の変質など、近年の群落構造や種組成の変化によるものも多い。

(1) はじめに

レッドデータ植物群落には、植物群落自体に守るべき希少性や重要性、保護上の緊急性がある場合だけでなく、ある植物群落にレッドデータ植物が生育するため、その生育場所として植物群落を保護すべき場合が考えられる。前者は植物群落自体の情報のみで検討することが可能であるが、後者は各植物群落の構成種による検討が必要である。また、相観は変化していなくても、本来の構成種の欠如や帰化植物の侵入などにより組成が変化している場合などは、植物群落自体が守るべき対象であっても、構成種による再検討が必要である。ただし、どちらの場合にしても、植物群落が、“種”の有機的な複合社会である以上、その捉え方には注意が必要である。

神奈川のレッドデータ植物群落については、田中 (2006) により、単一群落 285 群落、群落複合 50 群落の合計 335 群落が報告されているが、この報告は、構成種まで含めたデータベース化は行わず、植物群落自体の情報からレッドデータ植物群落を選定したものである。しかし、神奈川県のレッドデータ植物を最上層の優占種とする植物群落を想定して対象植物群落を補填したことで、今後の各植物群落の構成種も含めての検討の際に、選定から漏れることがないように配慮し、レッドデータ植物群落選定のための対象群落も含めてリスト化している。

本報告では、このうち、丹沢から報告されている、あるいは報告される可能性のある植物群落を抽出した。また、その一部には、田中 (2006) の報告後の成果である本総合調査の成果である村上ほか (2007)、安藤ほか (2007)、勝山ほか (2007b) を参考にした。

(2) 研究史

丹沢の植物群落についての報告は、宮脇ほか (1964) による「丹沢山塊の植生」に始まり、その後、神奈川県全域を対象とした『神奈川県現存植生』(宮脇ほか, 1972) や宮脇編著 (1986) 『日本植生誌 関東』でも言及されている。また、丹沢を含む市町村域などを対象とした植生調査報告書や市史・自然環境調査報告の一部としては、厚木市 (宮脇ほか, 1982) や相模川流域 (大場, 1985)、中津川溪谷 (大場, 1991)、愛川町 (奥田, 1997) などが

あり、前回の丹沢大山自然環境総合調査 (1993 ~ 1997 年) の成果 (村上・中村, 1997; 星ほか, 1997; 大野・尾関, 1997) や今回の総合調査の成果 (村上ほか, 2007; 安藤ほか, 2007)、ブナ林 (遠山・坂井, 1993)、イヌブナ林 (星, 1999)、モミ林 (和泉・遠山, 1997)、サツキ群落 (中川, 1982; 田中, 1999) の報告、神奈川県の指定天然記念物の現況報告 (和田ほか, 1992; 平吹ほか, 1992) などの数多くの報告のほか、植生調査表などは含まないが、「山北町の植物」(勝山ほか, 2002) なども参考になる。また、近年のニホンジカの過度の採食による植物群落への影響についても、村上 (2005)、村上・中村 (2006)、田村・勝山 (2007) などの報告がある。

(2) 選定方法

本報告では、田中 (2006) による神奈川県のレッドデータ植物群落のうち、最上層の優占種として想定された植物が、勝山ほか (2007b) により丹沢産の維管束植物とされているものを丹沢のレッドデータ植物群落として抽出した。その選定・記述にあたっては、田中 (2006) 同様、基本的に『植物群落レッドデータ・ブック』(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編, 1996) のための調査に準じ、単一群落は 24 個の群系ごとに、群落複合は 5 個のタイプ (丹沢に出現した群系・タイプのみ) ごとに記述した。

田中 (2006) が、神奈川県のレッドデータ植物群落となりうるとしてリスト化したものは (文末の [] 内は本報の各植物群落の記述で示した略号)、

- (1) 『植物群落レッドデータ・ブック』(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編, 1996) で神奈川県から報告されているもの [国 RDB (神奈川)]。
- (2) 「特定植物群落選定基準」(環境庁自然保護局編, 1978) に基づいて選定されたもの (環境庁自然保護局生物多様性センター編, 2000) [特定群落]。
- (3) 国指定の天然記念物および神奈川県指定の天然記念物のうちの植物群落 [天然記念物]。
- (4) かながわの美林 50 選 (神奈川県自然保護協会編, 1989; 神奈川県農政部長務課編, 1991 ほか) に選定されているものの一部 [美林]。
- (5) 神奈川県のレッドデータ植物に選定されている (勝山ほか, 2006) が、『植物群落レッドデータ・ブック』には該当種を最上層の優占種とする植物群落が掲載されていないものの一部 [RD 植物]。

1) 神奈川県立生命の星・地球博物館

(6) 『植物群落レッドデータ・ブック』では神奈川県から報告されていないが、『神奈川県植物誌 2001』(神奈川県植物誌調査会編, 2001)により, 県内に自生する(一部の帰化や植栽を含む)とされる植物を最上層の優占種とするもの〔国 RDB〕。

(7) 植物社会学的な植生単位(群集)の原記載地が神奈川県内にあるもの〔原記載地〕。

(8) 神奈川県内から報告されている植物社会学的な植生単位のうち, 上記のもの以外で, 著者が保護上重要であると判断したもの〔既報告〕。

(9) 群落複合の構成要素である単一群落〔複合構成〕であり, このうち,

① 植生帯を代表する自然植生と考えられる植物群落

② 人為的な攪乱により維持されてきた遷移途上の植物群落

③ 特異な立地に成立する植物群落

④ レッドデータ植物を構成種あるいは優占種とする植物群落などの観点からレッドデータ植物群落を選定している。本報では, このうちの特定群落や天然記念物, 美林, 原記載地, 既報告などについては, 丹沢に位置するもののみを再抽出した。なお, 田中(2006)がレッドデータ植物群落としたハコネダケ群落の特定群落・既報告, ハナウド群落の既報告は, それぞれ丹沢からのものではないが, とともに丹沢では稀なため, 選定理由をあげずに特に取り上げた。

各植物群落の記載は, 群落名に続いて, [] 内に選定理由, 次行より特記事項や既報による県下からの報告名称, 状況の順に記し, 選定理由の「RD 植物」に関しては, 勝山ほか(2006)による神奈川県レッドデータの評価を「RD 植物」に続けて, 絶滅を EX, 絶滅危惧 I A 類を CR, 絶滅危惧 I B 類を EN, 絶滅危惧 II 類を VU, 準絶滅危惧を NT で示した。ただし, 群落複合については, 田中(2006)との重複も多いため, 群落名に続いて, () 内に所在地, [] 内に選定理由を示したが, その後の記述は田中(2006)と重複している。また, 既報については, 略称により示し, 『神奈川』『厚木』『相模川』などの記録からは, 丹沢外のは除いたが, 一部は, 丹沢にも分布する可能性があるとして残した。

『国 RDB』: 『植物群落レッドデータ・ブック』(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編, 1996)

『県指定』: 『ふるさとの文化財(天然記念物篇)』(神奈川県教育庁編, 1983) ほか

『第 2 回特定群落』: 『第 2 回自然環境基礎調査 特定植物群落調査報告書』(神奈川県編, 1978)

『第 3 回特定群落追加・追跡』: 『第 3 回自然環境基礎調査 特定植物群落調査報告書, 追加調査・追跡調査(神奈川県)』(環境庁編, 1988a)

『第 5 回特定群落』: 『第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書』((環境庁自然保護局・生物多様性センター編, 2000)

『生物多様性情報システム』: 『生物多様性情報システム, 基礎調査データベース検索 第 5 回特定植物群落調査』(環境省生物多様性センター 2005)

『美林』: 『特集・かながわの美林 50 選』(神奈川県自然保護協会編, 1989)・『かながわの美林 50 選』(神奈川県農政部林務課編, 1991)

『神奈川』: 『神奈川県の現存植生』(宮脇ほか, 1972)

『厚木』: 『厚木市の植生』(宮脇ほか, 1982)

『愛川』: 『愛川町の植生』(奥田, 1997)

『相模川』: 『維管束植物による相模川流域の環境評価 II・植生』(大場, 1985)

『丹沢山塊』: 『丹沢山塊の植生』(宮脇ほか, 1964)

『中津川』: 『丹沢中津川溪谷の植生』(大場, 1991)

『丹沢動的・土地的』: 『丹沢山地における動的・土地的植生について』(村上・中村, 1997)

『丹沢自然林』: 『丹沢山地の自然林』(星ほか, 1997)

『丹沢ブナクラス』: 『丹沢山地の植生(特にブナクラス域の植生について)』(大野・尾関, 1997)

『丹沢シカ影響下』: 『丹沢大山の植生—シカ影響下の植物群落—』(村上ほか, 2007)

『丹沢 MA』: 『東・西丹沢の植生比較—丹沢東西モニタリングエリアの植生—』(安藤ほか, 2007)

さらに, 一部には, 調査期間外のものも含め, 植物社会学的な植生調査資料を付したが, その調査地の詳細は, レッドデータ植物群落の保全のため, 細かくは示さなかった。

(3) 選定結果

単一群落

単一群落については, 群系ごとに以下の 24 群系 95 群落を丹沢のレッドデータ植物群落として報告した。林冠木の枯死やシカの過度の採食による林床植生の変質など, その姿を変えつつある植物群落が多い。選定理由別では, 複数の選定理由によるものもあるが, 国 RDB(神奈川)が 16 群落, 特定群落が 12 群落, 天然記念物が 2 群落, 美林が 6 群落, RD 植物が 45 群落, 国 RDB が 63 群落, 原記載地が 6 群落, 既報告が 27 群落, 複合構成が 20 群落である。

常緑広葉高木林

丹沢の常緑広葉高木林は, 垂直的には標高 700 ~ 800m 以下の立地に成立しており, 丹沢の範囲をどこまでとするかによるが, その多くはスギ・ヒノキの植林などに人為的に改変されている。また, 一部の尾根筋では標高 1,000m ほどまでアカガシを主体とする常緑広葉樹林が成立しているが, 林分によってはモミなどが優占しており, 後述の温帯針葉高木林の範疇に含めるべきものもある。丹沢の常緑広葉高木林は, その多くが失われていることに加え, ニホンジカによる過度の採食や踏み付けなどによる攪乱のため, 林床植生は変質し, 以前とは異なる種組成を有しており, 今後の対策が必要である。

田中(2006)の最上層優占種のうち, 勝山ほか(2007b)から判断し, 丹沢に分布しているのはアカガシやウラジロガシ, シラカシ, スダジイ, タブノキ, ヤマグルマである。このうち, 丹沢において群落として成立していると考えられるのは, アカガシ群落, ウラジロガシ群落, スダジイ群落, ヤマグルマ群落であり, シラカシ群落とタブノキ群落は, より低標高の丘陵地などに成立する植物群落であるためここでは除いた。なお, 『厚木』のシラカシ群集(シラカシ群落)とイノデータブノキ群集(タブノキ群落)の報告は, それぞれ台地上や河岸段丘崖, 低地や台地の社寺林のものである。また, 村上ほか(2007)は丹沢のヤブツバキクラスの植物群落をヤブコウジ—スダジイ群集, サカキ—ウラジロガシ群集, イロハモミジ—ケヤキ群集, アラカシ群落の 3 群集 1 群落にまとめているが, イロハモミジ—ケヤキ群集は冷温帯落葉広葉高木林のケヤキ群落として扱った。

アカガシ群落 *Quercus acuta* community [国 RDB (神奈川県)・複合構成]

ウラジロガシとともに、ツツガ群落やモミ群落などと、暖温帯域から冷温帯域の移行帯において、優占植分を形成する。なお、『国 RDB』は「アカガシ群集」を掲載しているが、植物社会学的な植生単位として「群集」の記載は見当たらない。

アカガシ群集 (伊勢原市) : 『国 RDB』

ウラジロガシ群落 *Quercus salicina* form. *angustata* community [国 RDB (神奈川県)・既報告・複合構成]

アカガシとともに、ツツガ群落やモミ群落などと、暖温帯域から冷温帯域の移行帯において、優占植分を形成する。

アラカシーウラジロガシ群落 : 『厚木』『神奈川県』

サカキウラジロガシ群集 : 『丹沢動的・土地的』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

スダジイ群落 *Castanopsis sieboldii* community [国 RDB (神奈川県)・天然記念物・特定群落・美林・既報告・複合構成]

群落複合として報告した「八幡神社の社叢林」や「八菅山八菅神社の森 / 八菅山のスダジイ林」もスダジイ群落を主体としたものである。

ヤブコウジースダジイ群集 : 『愛川』『厚木』『神奈川県』『丹沢シカ影響下』

ヤマグルマ群落 *Trochodendron aralioides* community [国 RDB]

箱根で記載されたイワナンテンーヤマグルマ群集 (宮脇ほか, 1969) は、これまで丹沢からの報告はないが、類似あるいは同一の植生単位と思われる植分が存在する。なお、後出のムサキツリガネツツジは、イワナンテンーヤマグルマ群集の標徴種とされる (宮脇ほか, 1969)。

温帯針葉高木林

丹沢の温帯針葉高木林は、暖温帯常緑広葉樹林域 (ヤブツバキクラス域) と冷温帯落葉広葉樹林域 (ブナクラス域) の移行帯や尾根筋に成立しており、一部のブナ群落中に混生している例もある。丹沢の温帯針葉高木林は、前述の常緑広葉樹林同様、ニホンジカによって林床植生が変質していることに加え、ウラジロモミなどでは“樹皮食い”の影響も大きい。また、大山の南斜面のモミ林で知られているように、大気汚染などの影響による林冠木の枯死も大きな問題である。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはアカマツやウラジロモミ、クロベ、クロマツ、ゴヨウマツ、スギ、ツガ、ハリモミ、ヒノキ、モミである。このうち、丹沢において群落として成立していると考えられるのは、クロマツ群落を除く各群落であり、スギ群落とヒノキ群落は植栽起源の可能性もあるが、玄倉川沿いの急傾斜地などに自生状の林分があり、特に取り上げた。また、クロベは絶滅とされており (勝山ほか, 2006)、ゴヨウマツも個体数が少ないため、それぞれ優占群落は存在しないと思われる。なお、村上ほか (2007) の報告のうち、ヤブツバキクラスのサカキウラジロガシ群集のモミ優占林分や、ブナクラスのコカンスゲーツガ群集のモミヤツガの優占林分、ヤマボウシーブナ群集のウラジロモミの優占林分などはそれぞれの該当群落として扱った。

アカマツ群落 *Pinus densiflora* community [国 RDB・既報告]

植林されたものが残存している例もあるが、まとまった植分は少ない。

アカマツ群落 : 『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ミツバツツジーアカマツ群落 : 『丹沢動的・土地的』

ヤマツツジーアカマツ群集 : 『愛川』

ウラジロモミ群落 *Abies homolepis* community [国 RDB]

丹沢では純林を作ることは少なく、ブナと混生することが多い。ニホンジカの採食による林床植生の変質や樹皮食いによる影響を受けている。

クロベ群落 *Thuja standishii* community [RD 植物 EX・国 RDB]

まとまった植分は現存しない。

ゴヨウマツ群落 *Pinus parviflora* community [RD 植物 CR]

もともとまとまった植分は存在しないと思われるが、遺存的に生育していたと思われることもあり、近年の大気汚染や温暖化による存続が危ぶまれる。

スギ群落 *Cryptomeria japonica* community [国 RDB]

報告されているものは植栽のものが多く、具体的な植分は示せないが、丹沢の断崖地などには自生と思われるものがみられる。

ツガ群落 *Tsuga sieboldii* community [特定群落・国 RDB・既報告]

急傾斜地の母岩が露出するような土壌の薄い立地に生育する。近年、大気汚染に起因するさまざまな要因により枯死木が目立つ。

ユースン沢のツガ林 (足柄上郡山北町) : 『第 5 回特定群落』

玄倉川のツガ林 (足柄上郡山北町) : 『第 5 回特定群落』

天王寺尾根のツガ林 (愛甲郡清川村) : 『第 5 回特定群落』

コカンスゲーツガ群集 : 『丹沢ブナクラス』『丹沢動的・土地的』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ハリモミ群落 *Picea polita* community [RD 植物 VU・国 RDB]

『丹沢自然林』によると、蛭ヶ岳南面に多数が生育していたが、枯死したものが多く激減している。

ヒノキ群落 *Chamaecyparis obtusa* community [国 RDB]

報告されているものは植栽のものが多く、具体的な植分は示せないが、丹沢の断崖地などには、ツガなどと混生する自生と思われるものがみられる。

モミ群落 *Abies firma* community [国 RDB (神奈川県)・特定群落・天然記念物・美林・既報告・複合構成] (図 1)

「大山のモミ林」では 1960 年代後半より立ち枯れが目立ち、「札掛のモミ林」では林冠の鬱閉による光環境の悪化やニホンジカの採食により林床植生が貧化している (和田ほか, 1992; 平吹ほか, 1992)。ニホンジカの採食に影響は他地域でも同様である。

モミ林 / 札掛のモミ林 (愛甲郡清川村) : 『国 RDB』: 『第 2 回特定群落』『美林』『県指定』

仏果山の自然林 (愛甲郡愛川町) : 『国 RDB』『第 2 回特定群落』

シキミーモミ群集 / 大山のモミ林 (伊勢原市) : 『国 RDB』『美林』

経ヶ岳の自然林 / 経ヶ岳のモミ林 (愛甲郡愛川町) : 『国 RDB』『第 2 回特定群落』

クマシデーモミ群落 : 『愛川』

冷温帯落葉広葉高木林

丹沢の冷温帯落葉広葉高木林は、垂直的には標高 700 ~ 800m 以上の立地に主に成立しており、沢筋などではより低標高域にも成立しているが、ここでは、田中 (2006) と同様、『国 RDB』に従い、低標高域の暖温帯域にも成立するコナラ群落やケヤキ群落などの落葉広葉樹林もここに含めた。丹沢の冷温帯落葉広葉樹高木林の一部では、前述の温帯針葉高木林と同様に、林床植生の変質や林冠木の枯死が大きな問題となっている。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはイヌブナやケヤキ、コナラ、サワグルミ、サンショウバラ、シオジ、テツカエデ、トチノキ、ナツツバキ、ナラガシワ、ブナ、ムラサキツリガネツツジ、ヨコグラノキ、リョウブである。しかし、このうち、サンショウバラ群落とムラサキツリガネツツジ群落は、田中 (2006) では、『国 RDB』で「箱根中央火口丘のムラサキツリガネツツジ」と「箱根中央火口丘のサンショウバラの自生地」が最上層の優占群落によりリョウブ群落として報告されているため、リョウブ群落と同様に冷温帯落葉広葉高木林としたが、ここでは丹沢での成立立地により、後出の岩角地・風衝低木林として報告した。また、テツカエデやトチノキ、ナツツバキ、ナラガシワ、ヨコグラノキは個体数がそれほど多くないため、それぞれ優占群落は存在しないとされるが特に取り上げた。

イヌブナ群落 *Fagus japonica* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・既報告]

イヌブナ群落はいわゆる中間温帯の主要な森林群落で、神奈川県ではブナ帯下部に成立している。『丹沢ブナクラス』によると、ブナ群落に比べるとニホンジカの採食などによる種組成の変化は起きていないが、予断を許さない状況である。

鍋割山のイヌブナ林 (足柄上郡山北町):『国 RDB』『第 2 回特定群落』

神ノ川のイヌブナ林 (津久井郡津久井町):『第 5 回特定群落』

ブナーイヌブナ群集:『厚木』『丹沢ブナクラス』『丹沢自然林』

コハクウンボクイヌブナ群集:『丹沢自然林』

ケヤキ群落 *Zelkova serrata* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・美林・既報告・複合構成]

丹沢のケヤキ群落は、溪谷沿いに広く成立している。『生物多様性情報システム』によると、「丹沢大洞のケヤキ林」は植栽起源のものであり、「三増のケヤキ林」は宅地開発により失われた。

三増のケヤキ林 (愛甲郡愛川町):『国 RDB』『第 3 回特定群落追加・追跡』

用木沢のケヤキ林 (足柄上郡山北町):『第 5 回特定群落』

本谷川のケヤキ林 (愛甲郡清川村):『第 5 回特定群落』

四十八瀬川のケヤキ林 (秦野市):『第 5 回特定群落』

奥野大平のケヤキ林 (津久井町):『美林』

丹沢大洞のケヤキ林 (清川村):『美林』

アブラチャンケヤキ群集:『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』



図 1. モミ群落。

イロハモミジーケヤキ群集:『愛川』『神奈川』『中津川』
丹沢村上 2007』『丹沢 MA』

オオモミジーケヤキ群集:『丹沢ブナクラス』

コクサギーケヤキ群集:『厚木』『丹沢動的・土地的』『中津川』

コナラ群落 *Quercus serrata* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・美林・既報告・複合構成]

三増峠のコナラ林 (愛甲郡愛川町):『国 RDB』『第 3 回特定群落追加・追跡』

クスギーコナラ群集:『愛川』『厚木』『神奈川』

クレーコナラ群集:『愛川』『丹沢動的・土地的』『丹沢シカ影響下』

サワグルミ群落 *Pterocarya rhoifolia* community [特定群落・国 RDB]

丹沢のサワグルミ群落は、シオジを混生するが多いが、ここでは双方で取り上げた。土壌流失や崩壊地の増大、堰堤の建設などによる環境悪化が懸念されている。

ユーシン沢のサワグルミ林 (足柄上郡山北町):『第 5 回特定群落』

シオジ群落 *Fraxinus spaethiana* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・原記載地・既報告]

サワグルミ群落同様、土壌流失や崩壊地の増大、堰堤の建設などによる環境悪化が懸念されている。イワボタンシオジ群集は丹沢で記載された植生単位で (『丹沢山塊』), その原記載地として重要である。

丹沢山塊のシオジ林 (足柄上郡山北町・愛甲郡清川村):『国 RDB』『第 2 回特定群落』

白石沢のシオジ林 (足柄上郡山北町):『第 5 回特定群落』

イワボタンシオジ群集:『丹沢山塊』『丹沢動的・土地的』『丹沢自然林』『丹沢ブナクラス』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ミヤマクマワラビーシオジ群集:『神奈川』; 今は?

テツカエデ群落 *Acer nipponicum* community [RD 植物 CR・国 RDB]

オオバアサガラの優占群落中に小群状に生育しており(田

村・入野, 2003), 独立した群落を形成しているとは言い難いが特に取り上げた。

トチノキ群落 *Aesculus turbinata* community [国 RDB]

まとまった植分は報告されていないが、やや産地に限られるため特に取り上げた。

ナツツバキ群落 *Stuartia pseudocamellia* community [RD 植物 EN・国 RDB]

優占群落を形成しているとは言い難いが、産地に限られるため特に取り上げた。

ナラガシワ群落 *Quercus aliena* community [国 RDB]

まとまった植分は報告されていないが、稀であり特に取り上げた。

ブナ群落 *Fagus crenata* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・美林・原記載地・既報告・複合構成]

丹沢のブナ群落は、大気汚染に起因するさまざまな要因による高木優占種の枯死やニホンジカの過度の採食による林床植生の変質が問題となっている。オオモミジガサーブナ群落とヤマボウシブナ群落、クワガタソウブナ群落は丹沢で記載された植生単位で(『丹沢山塊』『神奈川のブナ林』), その原記載地として重要である。なお、クワガタソウブナ群落は、ニホンジカの過度の採食により林床植生の構成種が変化した植分がまとめられた植生単位である。

丹沢堂平のブナ林/ブナ林(一部にシオジ林あり)(愛甲郡清川村):『国 RDB』『美林』

ブナ林(足柄上郡山北町):『国 RDB』

大室山のオオモミジガサーブナ群落/大室山のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

大室山のヤマボウシブナ群落/大室山のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

加入道山のオオモミジガサーブナ群落/加入道山のブナ林(1)(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

加入道山のヤマボウシブナ群落/加入道山のブナ林(2)(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

塔ヶ岳のヤマボウシブナ群落/塔ヶ岳のブナ林(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

丹沢山のオオモミジガサーブナ群落/丹沢山のブナ林(1)(愛甲郡清川村):『国 RDB』『第2回特定群落』

丹沢山のヤマボウシブナ群落/丹沢山のブナ林(2)(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

棚沢のオオモミジガサーブナ群落/棚沢のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

蛭ヶ岳のアズマザサーブナ群落/蛭ヶ岳のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

蛭ヶ岳のオオモミジガサーブナ林/蛭ヶ岳のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

鍋割山のオオモミジガサーブナ群落/鍋割山のブナ林(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

犬越路のヤマボウシブナ群落/犬越路のブナ林(津久井郡津久井町):『国 RDB』『第2回特定群落』

畦ヶ丸山のヤマボウシブナ群落/畦ヶ丸山のブナ林(足柄上郡山北町):『国 RDB』『第2回特定群落』

東沢尾根のブナ林(足柄上郡山北町):『第5回特定群落』

ヤマボウシブナ群落モミ亜群落(伊勢原市):『国 RDB』

松洞丸のブナ林(山北町・津久井町):『美林』

→ブナ-イヌブナ群落(イヌブナ群落)

オオモミジガサーブナ群落:『神奈川』『丹沢山塊』『丹沢動的・土地的』『丹沢自然林』『丹沢ブナクラス』『神奈川のブナ林』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』
クワガタソウブナ群落:『丹沢自然林』『神奈川のブナ林』

ヤマボウシブナ群落:『丹沢山塊』

ヤマボウシブナ群落:『厚木』『神奈川』『丹沢山塊』『丹沢動的・土地的』『丹沢自然林』『丹沢ブナクラス』『神奈川のブナ林』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ヨコグラノキ群落 *Berchemia berchemiifolia* community [RD 植物 EN・国 RDB]

独立した群落を形成しているとは言い難いが、分布に限られるため特に取り上げた。

リョウブ群落 *Clethra barbinervis* community [国 RDB・既報告・複合構成]

丹沢のリョウブ群落は、尾根沿いの風衝地周辺や岩塊地周辺などに成立している。

イトスゲ-リョウブ群落:『丹沢ブナクラス』

スズタケ-リョウブ群落:『厚木』

河畔林

丹沢の河畔林は、山間部でもあり、あまり発達しておらず、宮脇ほか(1964)や村上ほか(2007)でも報告されていない。

田中(2006)の最上層優占種のうち、勝山ほか(2007b)から判断し、丹沢に分布しているのはタチヤナギとネコヤナギである。しかし、『相模川』のタチヤナギ群落(タチヤナギ群落)は中流域より下流のみで記録されたものであり、ここでは除いた。

ネコヤナギ群落 *Salix gracilistyla* community [国 RDB・既報告]

ネコヤナギ群落:『相模川』『中津川』

溪流辺低木林

田中(2006)の最上層優占種のうち、勝山ほか(2007b)から判断し、丹沢に分布しているのはサツキのみである。

サツキ群落 *Rhododendron indicum* community [RD 植物 EN・国 RDB・既報告]

中川(1982)や田中(1999)の現況報告があるが、中津溪谷のものは宮ヶ瀬ダムの建設により絶滅し、道志溪谷にのみ現存する。県内の産地は分布の東限に位置する。

サツキ群落:『相模川』『丹沢動的・土地的』『中津川』

湿原縁低木林

丹沢には湿原と呼ばれるような立地は存在しないが、多少湿った草原は存在する。

田中(2006)の最上層優占種のうち、勝山ほか(2007b)から判断し、丹沢に分布しているのはレンゲツツジのみである。しかし、レンゲツツジは絶滅とされており(勝山ほか, 2006), その群落も現存しない。

レンゲツツジ群落 *Rhododendron japonicum* community [RD 植物 EX・国 RDB]

現存していれば優占群落を形成していたと思われる。

亜高山針葉高木林

丹沢の最高峰は標高1,673mの蛭ヶ岳であり、亜高山帯

の植生が発達するには不十分であるが、亜高山帯を生育地とするいくつかの植物が分布している。

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはコメツガのみである。コメツガは個体数が限られ、優占群落を形成しているとは言い難いが特に取り上げた。

コメツガ群落 *Tsuga diversifolia* community [RD 植物 CR・国 RDB]

本来はシラビソ帯のものであるが丹沢にも現存する。タイムスケールについては考慮すべきであるが、遺存的に残ったものだと考えられ、群落としてのまとまりには欠けるが特に取り上げた。

温帯性先駆木本群落

丹沢の温帯性先駆木本群落は、溪畔沿いや尾根部の攪乱が著しい立地や、林道や登山道沿いの人為的な影響を強く受けた立地に成立している。

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはニシキウツギやフサザクラ、ヤシャブシである。なお、村上ほか（2007）はヤマハンノキ・ミヤマヤシャブシ群落を報告しているが、ここではミヤマヤシャブシもヤシャブシと同じものとし、ヤシャブシ群落として扱った。

ニシキウツギ群落 *Weigela decora* community [国 RDB (神奈川県)・特定群落・既報告・複合構成]

リュウブ群落と同様に、尾根沿いの風衝地周辺や岩塊地周辺などに成立している。

鍋割山山頂の低木林（足柄上郡山北町）：『国 RDB』『第2回特定群落』

アズマザサーニシキウツギ群落：『丹沢山塊』

ウツギーニシキウツギ群落：『丹沢ブナクラス』

マメグミーニシキウツギ群落：『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ミツバウツギーニシキウツギ群落：『厚木』『丹沢山塊』

ミヤマヤシャブシーニシキウツギ群落：『相模川』上の方

リュウノウギクニシキウツギ群落：『丹沢山塊』

フサザクラ群落 *Euptelea polyandra* community [国 RDB・原記載地・既報告・複合構成]

タマアジアイーフサザクラ群落は丹沢で記載された植生単位で（『丹沢山塊』）、その原記載地として重要である。

タマアジアイーフサザクラ群落：『厚木』『神奈川県』『愛川』

『相模川』『丹沢山塊』『丹沢動的・土地的』『丹沢自然林』『中津川』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

ヤシャブシ群落 *Alnus firma* community [国 RDB・既報告]

ここではミヤマヤシャブシも含めて扱った。安藤ほか（2007）はヤシャブシの植生を報告している。

コアカソーヤシャブシ群落：『丹沢ブナクラス』

ヤマハンノキ・ミヤマヤシャブシ群落：『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

暖地性先駆木本群落

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはエノキやムクノキ、タラノキである。しかし、エノキ群落やムクノキ群落は、より低標高域の河畔林などに成立する植物群落であり、『愛川』『相模川』『厚木』のムクノキ・エノキ群落の報告は沖積低

地のものであるため除き、タラノキ群落は、クサイチゴータラノキ群集が逗子市を原記載地として報告された植生単位である（宮脇ほか、1971）ため、田中（2006）がレッドデータ植物群落として選定したもので、ここでは除いた。

ササ草原・竹林

丹沢のササ草原・竹林は、主に山頂部や尾根筋の風衝地のササ草原と山麓部のマダケ・モウソウチクの植生に大別される。ササ草原は風衝地の植物の生育地として、マダケ・モウソウチク林は里山の景観上重要である。

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはトクガワザサやハコネダケ、マダケ、ミヤマクマザサ、モウソウチクである。トクガワザサ群落とハコネダケ群落は箱根に多く、丹沢では少ないもので、マダケ群落とモウソウチク群落は山麓に植栽されているものである。

トクガワザサ群落 *Sasa tokugawana* community [国 RDB]

トクガワザサは、箱根ではフジアカショウマーシモツケソウ群集の優占種となることがあるが、丹沢ではまとまった植分は報告されていない。

ハコネダケ群落 *Pleioblastus chino* form. *vaginatus* community

特定群落の「箱根外輪山のハコネダケ群落」は箱根のもので、丹沢では稀である。

マダケ群落 *Phyllostachis bambusoides* community [国 RDB・既報告]

手入れが行き届かず荒廃したものも多いが、山麓では景観上重要である。

マダケ群落/マダケ林：『愛川』

ミヤマクマザサ群落 *Sasa hayatae* community [国 RDB・既報告・複合構成]

丹沢では、植生単位の捉え方にもよるが、フジアカショウマーシモツケソウ群集の優占種となることがある。

ヤマカモジグサーミヤマクマザサ群落：『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

モウソウチク群落 *Phyllostachis pubescens* community [国 RDB・既報告]

管理が行き届かず荒廃したものも多いが、山麓では景観上重要である。

モウソウチク林：『愛川』

岩角地・風衝低木林

丹沢の岩角地・風衝低木林は、尾根部を中心に成立しており、特異な景観を形成している。

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはサラサドウダンやハコネコメツツジ、ミツバツツジである。また、このほか、田中（2006）では、『国 RDB』に従いリュウブ群落と同様に冷温帯落葉広葉高木林に含めたサンショウバラ群落とムラサキツリガネツツジ群落は、ここでは丹沢での成立立地より、岩角地・風衝低木林として扱った。

サラサドウダン群落 *Enkianthus campanulatus* community [国 RDB・複合構成]

サンショウバラ群落 *Rosa hirtula* community [国 RDB (神奈川県)]

丹沢のサンショウバラは西丹沢の一部に分布が限られ、

優占群落を形成しているとは言い難いが特に取り上げた。田中 (2006) では、『国 RDB』に従いリョウブ群落と同様に冷温帯落葉広葉高木林に含めたが、ここでは丹沢での成立立地により、岩角地・風衝低木林として扱った。

ハコネコメツツジ群落 *Rhododendron tsusioophyllum* community [国 RDB (神奈川)・RD 植物 VU・既報告・複合構成]

丹沢にもハコネコメツツジが産することは古くから知られていたが、オノエランーハコネコメツツジ群集の『神奈川』の報告は箱根のもので、『丹沢シカ影響下』の報告が新産の報告である。登山道沿いの植分は、園芸用の採集により失われつつある。

オノエランーハコネコメツツジ群集：『神奈川』『丹沢シカ影響下』

ミツバツツジ群落 [国 RDB]

東丹沢では園芸用の採集により減少している。

ムラサキツリガネツツジ群落 *Menziesia multiflora* var. *purpurea* community [国 RDB (神奈川)・RD 植物 EN] (表 1)

丹沢のムラサキツリガネツツジ群落は、岩塊上の林冠が開けた立地の成立している。上層には、高木種が生育していることが多く、最上層の優占種とは言い難いが、少ないため特に取り上げた。田中 (2006) では、『国 RDB』に従いリョウブ群落と同様に冷温帯落葉広葉高木林に含めたが、ここでは丹沢での成立立地により、岩角地・風衝低木林として扱った。

林縁性低木・つる植物群落

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはマルバウツギのみである。しかし、マルバウツギ群落は、マルバウツギ群集が相模原市を原記載地として報告された植生単位である (大場, 1988) ため、田中 (2006) がレッドデータ植物群落として選定したもので、ここでは除いた。

高山・亜高山低木林

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはヤハズハンノキのみである。しかし、ヤハズハンノキは絶滅とされており (勝山ほか, 2006), その群落も現存しない。

ヤハズハンノキ群落 *Alnus matsumurae* community [RD 植物 EX・国 RDB]

亜高山高茎草原

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b)

表 1. ムラサキツリガネツツジ群落.

通し番号	1	2	3	Reference number
調査番号	NTA	NTA	NTA	Original relevé number
調査年月日	2004	2004	2004	Relevé date
	10	11	8	
	6	6	6	
	16	16	15	
海拔高 (m)	1600	1600	1500	Altitude(m)
斜面方位	N	N	NW	Aspect
斜面傾斜 (°)	40	50	70	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	12	12	6	Relevé size (m ²)
高木層の高さ (m)	6	6	8	Height of tree layer (m)
高木層の植被率 (%)	80	60	40	Cover of tree layer (%)
低木層の高さ (m)	1.5	1.5	1	Height of shrub layer (m)
低木層の植被率 (%)	30	40	30	Cover of shrub layer (%)
草本層の高さ (m)	0.2	0.2	0.3	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	50	30	30	Cover of herb layer (%)
出現種数	31	20	26	Numer of species

ムラサキツリガネツツジ	S 2・2 H .	3・2 .	2・2 +・2	<i>Menziesia lasiophylla</i>
シモツケソウ	H 2・3	2・2	2・3	<i>Filipendula multijuga</i>
シロヨメナ	H 2・2	1・2	1・2	<i>Aster leiophyllus</i>
ミヤマカラマツ	H +	1・2	+・2	<i>Thalictrum filamentosum</i> var. <i>tenerum</i>
ヘビノネゴザ	H +	+・2	+	<i>Athyrium yokoscense</i> var. <i>yokoscense</i>
ヒロハノツリバナ	T 3・4	3・3	.	<i>Euonymus macropterus</i>
トリガタハンショウヅル	H 2・3	+・2	.	<i>Clematis tosaensis</i>
キバナウツギ	S 2・1	2・2	.	<i>Weigela maximowiczii</i>
ムシカリ	T 2・1	2・1	.	<i>Viburnum furcatum</i>
リョウブ	T 1・2	2・2	.	<i>Clethra barvinervis</i>
ヤマアジサイ	H 1・2	+	.	<i>Hydrangea serrata</i>
ヤマブキシヨウマ	H +・2	+・2	.	<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>tenuifolius</i>
ツルシロカネソウ	H +・2	+	.	<i>Dichocarpum stoloniferum</i>
タマガワホトギス	H +	+・2	.	<i>Tricyrtis latifolia</i>
ミヤマワラビ	H +	+	.	<i>Thelypteris phegopteris</i>
ツルアジサイ	H 1・2	.	1・1	<i>Hydrangea petiolaris</i>
アラゲアオダモ	T 1・1	.	1・1	<i>Fraxinus lanuginosa</i>
タンザワヒゴタイ	H +・2	.	1・2	<i>Saussurea triptera</i> var. <i>hisauchii</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no. 1: トリガタハンショウヅル *Clematis tosaensis* S-1・2, ツノハシバミ *Corylusiana sieboldiana* T-1・1, イワボタン *Chrysosplenium macrostemon* H+・2, マルバダケブキ *Ligularia dentata* H+・2, ミヤマタニタデ *Circaea alpina* H+・2, トウゴクミツバツツジ *Rhododendron wadanum* H+, サラサドウダン *Enkianthus campanulatus* H+, イワイタチシダ *Dryopteris saxifraga* H+, ノリウツギ *Hydrangea paniculata* H+, ホソエノアザミ *Cirsium tenuipedunculatum* H+, ホソバコケシノブ *Hymenophyllum polyanthos* H+, ミヤマタタビ *Actinidia kolomikta* T+, ミヤマムグラ *Galium paradoxum* H+; no. 2: イワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* H-1・2, キバナウツギ *Weigela maximowiczii* H+・2, ヤグルマソウ *Rodgersia podophylla* H+・2, タガネソウ *Carex siderosticta* H+, フジイバラ *Rosa fujisanensis* H+; no. 3: ヤマグルマ *Trochodendron aralioides* T-2・2, クマシデ *Carpinus japonica* T-2・1, モミジカラマツ *Thalictrum japonica* H-1・2, フジアカシヨウマ *Astilbe fujisanensis* H-1・2, ベニバナツツジ *Abelia spathulata* var. *sanguinea* S-1・1, リョウブ *Clethra barvinervis* S-1・1, ヌキノシタ *Saxifraga stolonifera* H+・2, オノエラン *Chondradenia fauriei* H+, コイワザクラ *Primula reinii* H+, ナンタイシダ *Dryopteris maximowiczii* H+, シモツケ *Spiraea japonica* H+・+, アズマイバラ *Rosa luciae* H+, イロハモミジ *Acer palmatum* H+, イワギボウシ *Hosta longipes* H+, シシガシラ *Blechnum niponicum* H+, タニギキョウ *Peracarpa carnosae* var. *circaeoides* H+, ヤマホトギス *Tricyrtis macropoda* H+.

から判断し、丹沢に分布しているのはモミジカラマツのみである。

モミジカラマツ群落 *Trautvetteria carolinensis* var. *japonica* community [RD 植物 EN・国 RDB] (図 2, 表 2)



図 2. モミジカラマツ群落.

沢の源頭部や岩塊地周辺のギャップ状の立地に稀に生育する。独立した群落を形成しているとは言い難いが特に取り上げた。

山地高茎草原

丹沢の山地高茎草原は、ブナなどの林冠木が枯死した立地にも広がりつつあり、その面積は増大している。しかし、他の植物群落と同様、ニホンジカの過度の採食により、その種組成は変質しており、その本来の姿は失われつつある。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはアマニュウやカワラナデシコ、シモツケソウ、フジアザミ、マツムシソウ、ヤマラッキョウ、レンゲショウマである。なお、レンゲショウマは通常は樹林下に生育するため、最上層の優占種とは言い難いが特に取り上げた。

アマニュウ群落 *Angelica edulis* community [RD 植物 CR・国 RDB]

まとまった植分は報告されていないが、もともと産地が限られる上、ニホンジカの採食による影響を受けている。

カワラナデシコ群落 *Dianthus superbus* var. *longicalycinus* community [国 RDB] (表 3)

まとまった植分は報告されていないが、生育地の河川敷や草原の状況は悪化している。

シモツケソウ群落 *Filipendula multijuga* community [国 RDB・原記載地・既報告・複合構成]

フジアカシヨウマーシモツケソウ群集は丹沢で記載された植生単位で (『丹沢山塊』)、その原記載地として重要である。ただし、フジアカシヨウマーシモツケソウ群集での優占種はいくつかの種が知られている。

フジアカシヨウマーシモツケソウ群集: 『神奈川』『丹沢山塊』『丹沢ブナクラス』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

フジアザミ群落 *Cirsium purpuratum* community [国 RDB (神奈川)・特定群落・原記載地・既報告]

フジアザミーヤマホタルブクロ群集は丹沢で記載された植生単位で (『丹沢山塊』)、その原記載地として重要である。

丹沢山塊のフジアザミ群落 (足柄上郡山北町): 『国 RDB』『第 2 回特定群落』

白ヶ岳のフジアザミ群落 (足柄上郡山北町): 『第 5 回特定群落』

丹沢山のフジアザミ群落 (愛甲郡清川村): 『第 5 回特定群落』

フジアザミーヤマホタルブクロ群集: 『厚木』『神奈川』『丹沢山塊』『丹沢動的・土地的』『丹沢ブナクラス』『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

マツムシソウ群落 *Scabiosa japonica* form. *japonica* community [RD 植物 EN・国 RDB・複合構成]

遷移の進行などにより産地が減少している。

表 2. モミジカラマツ群落.

通し番号	1	2	Reference number
調査番号	NTA	NTA	Original relevé number
	9	7	
調査年月日	2004	2004	Relevé date
	6	6	
	15	15	
海拔高 (m)	1500	1500	Altitude(m)
斜面方位	W	NW	Aspect
斜面傾斜 (°)	80	60	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	3	1.5	Relevé size (m ²)
低木層の高さ (m)	2.5	1	Height of shrub layer (m)
低木層の植被率 (%)	30	40	Cover of shrub layer (%)
草本層の高さ (m)	0.2	0.2	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	40	30	Cover of herb layer (%)
出現種数	17	8	Numer of species

モミジカラマツ	H 1・2	1・1	<i>Thalictrum japonica</i>
ムラサキシキブ	S, H 1・2	3・3	<i>Callicarpa japonica</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no.1: フジアカシヨウマ *Astilbe fujisanensis* H-2・3, コアジサイ *Hydrangea hirta* S-2・2, H-1・2, シナノキ *Tilia japonica* S-2・1, ヒロハノツリバナ *Euonymus macropterus* S-1・1, イワナンテン *Leucothoe keiskei* H-1・2, トウゴクミツバツツジ *Rhododendron wadanum* S-1・2, トウゴクミツバツツジ *Rhododendron wadanum* H+・2, オノエラン *Chondradenia fauriei* H+・2, ヘビノネゴザ *Athyrium yokoscense* var. *yokoscense* H+・2, キンレイカ *Patrinia triloba* var. *palmata* H+・2, コイワザクラ *Primula reinii* H+, ナンタイシダ *Dryopteris maximowiczii* H+, タガネソウ *Carex siderosticta* H+, タンザワヒゴタイ *Saussurea triptera* var. *hisauchii* H+, カモメラン *Galeorchis cyclochila* H+; no.2: ヤマトリカブト *Aconitum japonicum* var. *montanum* H-2・2, アカシヨウマ *Astilbe thunbergii* H-1・2, フジイバラ *Rosa fujisanensis* H+・2, ガクウツギ *Hydrangea scandens* H+・2, ミヤマニガイチゴ *Rubus koehneanus* H+, シモツケソウ *Filipendula multijuga* H+.

表 3. カワラナデシコ群落.

通し番号	1	2	Reference number
調査番号	YAK	YAK	Original relevé number
	2	3	
調査年月日	1995	1995	Relevé date
	11	11	
	8	8	
海拔高 (m)	140	140	Altitude(m)
斜面方位	-	-	Aspect
斜面傾斜 (°)	L	L	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	2	6	Relevé size (m ²)
草本層の高さ (m)	0.7	0.7	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	30	30	Cover of herb layer (%)
出現種数	7	11	Numer of species

カワラナデシコ	1・2	2・2	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>
ススキ	1・2	1・2	<i>Miscanthus sinensis</i>
アレチマツヨイグサ	1・2	+・2	<i>Oenothera parviflora</i>
コセンダングサ	1・2	+	<i>Bidens pilosa</i>
マルバヤハズソウ	+・2	1・2	<i>Kummerowia stipulacea</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no. 1: マメゲンバイナズナ *Lepidium virginicum* +, エノコログサ *Setaria viridis* +; no. 2: ヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii* 1・2, ナギナタガヤ *Vulpia myuros* +・2, カラメドハギ *Lespedeza juncea* +, クズ *Pueraria lobata* +, シロツメクサ *Trifolium repens* +, ニシキウツギ *Weigela decora* +.

ヤマラッキョウ群落 *Allium thunbergii* community [国 RDB・複合構成]

遷移の進行などにより産地が減少している。

レンゲショウマ群落 *Anemonopsis macrophylla* community [RD 植物 EN・国 RDB]

通常は林下に生育し、最上層に優占することはないが、ニホンジカの採食の影響も受けており特に取り上げた。

低層湿原・挺水植物群落

丹沢の低層湿原・挺水植物群落は、その成立立地自体が珍しく、山地高茎草原中の適湿立地に混在するが、下記の優占群落はほとんどみられない。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはカキランやチダケサシ、ノハナショウブ、ミズチドリである。このうち、ミズチドリは丹沢では絶滅とされており (勝山ほか, 2006)、ミズチドリ群落は現存しない。

カキラン群落 *Epipactis thunbergii* community [RD 植物 EN・国 RDB]

丹沢では、遷移の進行や園芸用の採集のためか、減少が著しい。

チダケサシ群落 *Astilbe microphylla* community [国 RDB (神奈川県)・複合構成]

ノハナショウブ群落 *Iris ensata* var. *spontanea* community [RD 植物 EN・国 RDB]

遷移の進行などにより、丹沢では絶滅したと思われる (勝山ほか, 2007)。

ミズチドリ群落 *Platanthera hologlottis* community [RD 植物 EN]

箱根には現存するが、丹沢では絶滅した (勝山ほか, 2006)

岩上・岩隙草本群落

丹沢の岩上・岩隙草本群落は、溪流辺草本群落とともに点在し、尾根から山腹の岩塊地や、溪岸の岸壁に成立している。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはアオガネシダやイワカラマツ、イワダレヒトツバ、イワユキノシタ、ウチョウラン、オオビランジ、キリンソウ、ケイワタバコ、コアカソ、コイワザクラ、サガミジョウロウホトギス、シラヒゲソウ、ツメレンゲ、ハナゼキショウ、ヒカゲツツジ、ヒメシャガ、ピランジ、マツバラ、ミヤマウラボシ、ヤシヤイノデである。このうち、コアカソ群落は、コアカソ群集が相模原市を原記載地として報告された植生単位である (大場, 1988) ため、田中 (2006) がレッドデータ植物群落として選定したもので、ここでは除き、オオビランジはピランジに含めたため、オオビランジ群落も除いた。また、アオガネシダとイワダレヒトツバは絶滅とされており (勝山ほか, 2006)、アオガネシダ群落とイワダレヒトツバ群落は現存しない。なお、村上ほか (2007) のイワタバコ群落の一部にはケイワタバコを含むため、ここではケイワタバコ群落に含めた。

アオガネシダ群落 *Asplenium wilfordii* community [RD 植物 EX・国 RDB]

丹沢では絶滅した (勝山ほか, 2006)。

イワカラマツ群落 *Thalictrum sekimotoanum* community [RD 植物 CR・国 RDB]

イワダレヒトツバ群落 *Pyrrosia davidii iwarengae* community [RD 植物 EX・特定群落・複合構成]

群落複合の「皆瀬川蛇石の溪谷群落」の構成群落であり、その選定の要因となったものであるが、『第3回特定群落追加・追跡』によると、今は失われた。

イワユキノシタ群落 *Tanakaea radicans* community [RD 植物 CR・国 RDB]

ウチョウラン群落 *Ponerorchis graminifolia* community [RD 植物 CR・国 RDB]

産地に限られる上、園芸用の採集により減少している。

キリンソウ群落 *Sedum aizoon* var. *floribundum* community

[国 RDB]

丹沢では樹幹に着生するが、林冠木の枯死による影響を受けている。

ケイワタバコ群落 *Conandron ramondioides* var. *pilosum* community [国 RDB]

ミツデウラボシイワタバコ群集は逗子市で記載されたが、逗子のイワタバコはすべてケイワタバコであると考えられる。丹沢にはイワタバコとケイワタバコの両種が生育し、その分類学上の位置づけや生態的な違いなどについては、今後検討の余地があるが、ここではケイワタバコ群落のみを取り上げた。村上ほか (2007) は、ケイワタバコをイワタバコ群落の区分種として扱っている。

コイワザクラ群落 *Primula reinii* community [RD 植物 VU・国 RDB・既報告・複合構成]

登山道沿いなどの人目につく産地は園芸用の採集により失われつつある。

コイワザクラ群落：『丹沢ブナクラス』

ヒトツバショウマコイワザクラ群集：『丹沢シカ影響下』

サガミジョウロウホトギス群落 *Tricyrtis ishii* community [RD 植物 EN]

産地に限られる上、園芸用の採集により減少している。

シラヒゲソウ群落 *Parnassia foliosa* var. *nummularia* community [国 RDB]

玄倉溪谷の岩上などにある。

ツメレンゲ群落 *Orostachys japonica* community [RD 植物 CR・国 RDB]

まとまった植分は報告されていないが、産地に限られるため特に取り上げた。

ハナゼキショウ群落 *Tofieldia nuda* community [国 RDB・既報告]

産地に限られるため特に取り上げた。

ケイリュウタチツボスミレーハナゼキショウ群落：『丹沢動的・土地的』

ヒカゲツツジ群落 *Rhododendron keiskei* community [RD 植物 EN]

産地に限られる上、園芸用の採集により減少している。

ヒメシャガ群落 *Iris gracilipes* community [RD 植物 VU・国 RDB]

産地に限られる上、園芸用の採集により減少している。

ピランジ群落 *Silene keiskei* community [国 RDB]

田中 (2006) では、オオビランジ群落とピランジ群落を別に扱ったが、ここでは勝山ほか (2007b) などに従い、ピランジ群落として扱った。

マツバラ群落 *Psilotum nudum* community [RD 植物 VU・国 RDB]

近年の産地、特に市街地のものは栽培起源である可能性もある。

ミヤマウラボシ群落 *Crypsinus veitchii* community [RD 植物 CR・国 RDB]

産地に限られるため特に取り上げた。

ヤシヤイノデ群落 *Polystichum neolobatum* community [RD 植物 CR]

産地に限られる上、ニホンジカの採食や園芸用の採集のため非常に減少している。

溪流辺草本群落

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはハルユキノシタとホンバコンギクである。

ハルユキノシタ群落 *Saxifraga nipponica* community [既報告]

宮ヶ瀬ダムの建設で多くの植分が失われた。北陸地方に不連続に分布し、丹沢の産地が東限になる。

ハルユキノシタ群落：『中津川』

ホソバコンギク群落 *Aster microcephalus* var. *angustifolius* community [原記載地・既報告]

サガミナガナーホソバコンギク群集は相模川で記載された植生単位で (『相模川』)、その原記載地として重要である。

サガミナガナーホソバコンギク群集：『相模川』『中津川』

河川礫原草本群落

丹沢の河川礫原草本群落は玄倉川や世附川、早戸川などの一部を除くとあまり発達しておらず、攪乱が激しい植物群落の発達が悪い立地が多い。この立地を生育地の本拠とする植物は、より低海拔地の河川中流～下流域の礫原に生育するものが多いため、丹沢では少ない。

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはアキノハハコグサやカワラケツメイ、カワラニガナ、カワラノギク、カワラヨモギである。このうち、『愛川』『相模川』『神奈川』などのカワラノギク群落やカワラヨモギーカワラサイコ群集 (カワラヨモギ群落)、カラメドハギーカワラケツメイ群集 (カワラケツメイ群落) の報告は、相模川などの中流～下流域でのものであり、ここでは除いた。ただし、カワラノギクについては、丹沢 (酒匂川中川温泉附近) では絶滅とされており (勝山ほか, 2006)、カワラノギク群落は現存しないが特に取り上げた。

カワラノギク群落 *Aster kantoensis* community [RD 植物 CR・国 RDB]

植物社会学的な植生単位 (群集) としてはマルバヤハズソウーカワラノギク群集が『相模川』『厚木』により相模川水系の中流域から報告されている。丹沢の植分は報告されていないが、失われた産地もあるため特に取り上げた。

アキノハハコグサ群落 *Gnaphalium hypoleucum* community [RD 植物 CR]

路傍・林縁草本群落

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはアマナやイチリンソウ、イヌノフグリ、オオブタクサ、カラムシ、コヒロハハナヤスリ、ハナウド、フクジュソウ、ヤマブキソウである。このうち、オオブタクサ群落は、オオブタクサ群集が相模川 (中下流域) を原記載地 (大場, 1985) として、カラムシ群落はカラムシ群集が相模原市を原記載地 (大場, 1988) として報告された植生単位であるため、田中 (2006) がレッドデータ植物群落として選定したもので、ここでは除いた。なお、イヌノフグリは、山麓部のみで記録されているものだが、低地での今後の記録の可能性は少ないため特に取り上げた。

アマナ群落 *Amana edulis* community [RD 植物 VU・国 RDB]

イチリンソウ群落 *Anemone nikoensis* community [国 RDB]

イヌノフグリ群落 *Veronica polita* subsp. *lilacina* community [RD 植物 EN]

まとまった植分の報告はないが、現存する産地が限られるため特に取り上げた。

コヒロハハナヤスリ群落 *Ophioglossum petiolatum* community [RD 植物 NT・国 RDB]

生育地は人為的な影響を受ける立地であるため特に取り上げた。

ハナウド群落 *Heracleum sphondylium* subsp. *sphondylium* var. *nipponicum* community

河川改修が進んだことから減少しているため特に取り上げた。

フクジュソウ群落 *Adonis ramosa* community [RD 植物 VU・国 RDB]

産地が限られる上、園芸用の採集により減少している。

ヤマブキソウ群落 *Chelidonium japonicum* community [RD 植物 VU・国 RDB]

産地が限られる上、園芸用の採集により減少している。

ススキ・シバ草原

田中 (2006) の最上層優占種のうち、勝山ほか (2007b) から判断し、丹沢に分布しているのはオキナグサやシバ、ススキ、スズサイコ、ヒメアブラススキ、ホタルサイコ、ミシマサイコである。このうち、丹沢において最上層の優占群落として成立していると考えられるのは、他の種があまり生育しないがれ場に成立するオキナグサ群落のほか、シバ群落やススキ群落、ヒメアブラススキ群落などのイネ科草本の草原であるが、他種についても、これまで報告例はないが、個体数が少ないため特に取り上げた。

オキナグサ群落 *Pulsatilla cernua* community [RD 植物 CR]

産地が限られる上、遷移の進行や園芸用の採集により減少している。

シバ群落 *Zoysia japonica* community [国 RDB]

自然 (半自然) 植生は少ないため特に取り上げた。ただし、『愛川』『相模川』『厚木』『中津川』のシバ群落は、低標高域のものである。

ススキ群落 *Miscanthus sinensis* community [国 RDB・既報告・複合構成]

自然 (半自然) 植生は少ないため特に取り上げた。

キバナカワラマツバーススキ群落：『神奈川』

ススキ群落：『愛川』

チガヤーススキ群落：『神奈川』『丹沢動的・土地的』

トダシバーススキ群集：『丹沢シカ影響下』『丹沢 MA』

リンドウーススキ群落：『丹沢ブナクラス』

スズサイコ群落 *Cynanchum paniculatum* community [RD 植物 EN]

遷移の進行などにより減少している。

ヒメアブラススキ群落 *Capillipedium parviflorum* community [国 RDB]

まとまった植分は報告されていないが、やや少ないため特に取り上げた。

ホタルサイコ群落 *Bupleurum longiradiatum* var. *breviradiatum* community [RD 植物 CR]

遷移の進行などにより減少している。

ミシマサイコ群落 *Bupleurum falcatum* community [RD 植物 CR]

遷移の進行などにより減少している。

シダ草原

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはシブカグマとホソイノデである。この両種は、ともに樹林下に生育するため、最上層の優占種とはならないが、田中（2006）同様、特に取り上げた。

シブカグマ群落 *Arachniodes mutica* community [RD 植物 CR・国 RDB]

優占群落を形成しているとは言い難いが、産地が限られるため特に取り上げた。

ホソイノデ群落 *Polystichum braunii* community [RD 植物 CR・国 RDB]

優占群落を形成しているとは言い難いが、産地が限られるため特に取り上げた。

水田雑草群落

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはオオジシバリのみである。しかし、水田雑草群落としてのオオジシバリ群落は、山麓にのみ成立するもので、ここでは取り上げなかった。

植林

丹沢の植林は、山腹を中心に広がっており、尾根部や冷温帯落葉広葉樹林域（ブナクラス域）に達しているものもある。

田中（2006）の最上層優占種のうち、勝山ほか（2007b）から判断し、丹沢に分布しているのはカラマツやスギ、クスノキである。このうち、丹沢において群落として成立していると考えられるのはカラマツ群落とスギ群落であり、クスノキは山麓にわずかに生育する程度である。

カラマツ群落 *Larix kaempferi* community [美林・国 RDB]
植林ではあるが、『美林』に「姫次のカラマツ林」が選定されている。

姫次のカラマツ林（津久井町）：『美林』

カラマツ植林：『丹沢ブナクラス』

スギ群落 *Cryptomeria japonica* community [国 RDB（神奈川県）・美林]

各地に植栽されるが、RDB 植物とされるシダ植物の生育地として重要である。

諸戸山林のスギ・ヒノキ林（秦野市）：『美林』

谷ヶのスギ林（足柄上郡山北町）：『美林』

スギ・ヒノキ植林 / スギ・ヒノキ植林：『愛川』『丹沢動的・土地的』『丹沢シカ影響下』

スギ植林 / スギ林：『丹沢ブナクラス』

群落複合

群落複合については、タイプごとに 11 群落を丹沢のレッドデータ植物群落として報告した。選定理由別では、複数の選定理由によるものもあるが、国 RDB（神奈川県）が 9 群落、特定群落が 11 群落、天然記念物が 3 群落、美林が 1 群落である。

暖温帯森林植生

丹沢の暖温帯森林植生は、山麓部の社寺林として保全されてきたものである。ともにスダジイを主体とする常緑広葉樹林がその中核をなしている。

八幡神社の社叢林（愛甲郡清川村）〔国 RDB（神奈川県）・特定群落・天然記念物〕

『第 2 回特定群落』によると、ケヤキやカエデ類にシラカシやアラカシが混生し、南東斜面ではスダジイも混生している。『第 3 回特定群落追加・追跡』にはヤブコウジースダジイ群集とされる植生調査表が付されている。

八菅山八菅神社の森 / 八菅山のスダジイ林（愛甲郡愛川町）〔国 RDB（神奈川県）・特定群落・美林〕

『第 2 回特定群落』によると、スダジイを中心とする群落やスギ林、ケヤキ群落がみられる。

冷・暖温帯移行部森林植生

丹沢の暖温冷・暖温帯移行部森林植生は、モミを主体とする常緑針葉樹林がその中核をなしているが、一部にはウラジログシやアカガシなどの常緑広葉樹とイロハモミジやケヤキなどの落葉広葉樹が混生あるいは優占する植分を含む。

大山南斜面原生林 / 大山の原生林（伊勢原市）〔国 RDB（神奈川県）・特定群落・天然記念物〕

大山の原生林」ではシキミーモミ群集とされるモミ林と冷温帯のブナ群落の構成種を伴うモミ林が連続して認められる（『第 2 回特定群落』）。「大山の原生林」については、和田ほか（1992）による詳しい報告がある。

谷ヶ・平山の山地林（足柄上郡山北町）〔国 RDB（神奈川県）・特定群落〕

『第 2 回特定群落』によると、ウラジログシ群落やシキミーモミ群集、イロハモミジ・ケヤキ群集が報告されている。

風衝植生

丹沢の風衝植生は、一部には、低木林の植分もあるが、ブナなどを主体とする落葉広葉樹林が破壊された跡や、茅場として利用されていた植分が起源であると思われる。また、近年では、林冠木の枯死により高茎草原化する植分も多く、組成の相違にあるが増えつつある。

不動ノ峰の風衝草原（津久井郡津久井町）〔国 RDB（神奈川県）・特定群落〕（図 3, 表 4）

『第 2 回特定群落』にはフジアカシヨウマーシモツケソウ群集とされる植生調査表が付されている。

河辺植生

丹沢の河辺植生は、河川上流域の溪畔に成立している



図 3. 不動ノ峰の風衝草原。

表 4. 不動ノ峰の風衝草原.

通し番号	1	2	3	Reference number
調査番号	TAZ	NTA	TAZ	Original relevé number
	63	6	61	
調査年月日	1998	2004	1998	Relevé date
	8	6	8	
	25	15	25	
海拔高 (m)	1550	1520	1530	Altitude(m)
斜面方位	S	S	SE	Aspect
斜面傾斜 (°)	35	10	3	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	40	16	25	Relevé size (m ²)
低木層の高さ (m)	2	-	-	Height of shrub layer (m)
低木層の植被率 (%)	80	-	-	Cover of shrub layer (%)
草本層の高さ (m)	0.25	0.4	0.3	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	95	90	100	Cover of herb layer (%)
出現種数	17	7	9	Numer of species

トウゴクミツバツツジ	S	3・4	・	・	<i>Rhododendron wadanum</i>
ニシキウツギ	S	2・2	・	・	<i>Weigela decorata</i>
ミヤマクマザサ	H	5・5	4・5	5・5	<i>Sasa hayatae</i>
ヤマカモジグサ	H	1・3	・	1・3	<i>Brachypodium sylvaticum</i> var. <i>miserum</i>
シロヨメナ	H	1・2	・	+	<i>Aster leiophyllus</i>
ヒメノガリヤス	H	+	+	1・2	<i>Calamagrostis hakonensis</i>
ヨツバムグラ	H	+	・	+	<i>Galium trachyspermum</i>
マイヅルソウ	H	・	+	+	<i>Maianthemum dilatatum</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no. 1: マメグミ *Elaeagnus montana* S-2・2, マメグミ *Elaeagnus montana* H+, ノイバラ *Rosa multiflora* H-1・2, ヤマミズ *Pilea japonica* H+・2, オトギリソウ *Hypericum erectum* H+, タイアザミ *Cirsium nipponicum* var. *incomptum* H+, タデ科の 1 種 *Polygonaceae* sp. H+, パライチゴ *Rubus illecebrosus* H+, ミミガタテンナンショウ *Arisaema limbatum* H+, ヤマイヌワラビ *Athyrium vidalii* var. *vidalii* form. *vidalii* H+, ヤマオダマキ *Aquilegia buergeriana* H+, no. 2: ヤマヌカバ *Agrostis clavata* H+・2, ニガナ *Ixeris dentata* H+・2, ミヤマニガイチゴ *Rubus koehneanus* H+, イタドリ *Reynoutria japonica* H+, コボタンヅル *Clematis apiifolia* var. *bitemata* H+, no. 3: ミヤマニンジン *Ostericum florentii* H+・2, シモツケソウ *Filipendula multijuga* H+, ハナイカリ *Halenia corniculata* H+.

溪畔林の植分が多いが、群落複合として、より広範囲のウラジロガン群落やにコナラ群落、モミ群落などまで含めて選定されている。

寄の溪谷林 (足柄上郡松田町) [国 RDB (神奈川)・特定群落]

『第 2 回特定群落』によると、タマアジサイーフサザクラ群集やウラジロガン群落、シキミーモミ群集が報告されている。

蓑毛の溪谷林 (秦野市) [国 RDB (神奈川)・特定群落]

『第 2 回特定群落』によると、多くはスギ・ヒノキの植林に被われるが、一部にクスギコナラ群集やタマアジサイーフサザクラ群集が報告されている。

岩隙植生

丹沢の岩隙植生としては、尾根沿いの岩塊地のものや溪岸の岸壁のものが選定されてきた。

鬼ヶ岩の岩上植生 (足柄上郡山北町) [国 RDB (神奈川)・特定群落] (表 5)

『第 2 回特定群落』では、ショウジョウスゲやイワシモツケが優占するウスユキソウーコイワザクラ群落の植生調査表が付されている。附近には、ハコネコメツツジ群落もあり、『国 RDB』と同様に群落複合として取り上げた。

皆瀬川蛇石の溪谷群落 / シダ類植物群落とその生育地 (足柄上郡山北町) [国 RDB (神奈川)・特定群落・天然記念物]

『国 RDB』では、「河辺植生 (06)」として報告されているが、ここでは「岩隙植生 (17)」として扱った。『第 2 回特定群落』によると、イワダレヒツツバのほか、ハコネ

シダやノキシノブなどのシダ植物の生育が報告されているが、『第 3 回特定群落追加・追跡』では、イワダレヒツツバは既に消失したとされている。

ユーシン沢の岩上・岩隙植生 (足柄上郡山北町) [特定群落] (表 6)

ヤブタバコ、ダイモンジソウ、ヒツツバシヨウマが生育する (『生物多様性情報システム』)。

早戸大滝の岩上・岩隙植生 (津久井郡津久井町) [特定群落]

ヒツツバシヨウマ、ダイモンジソウ、イワタバコなどが生育する (『生物多様性情報システム』)。

(4) おわりに

本報では、丹沢のレッドデータ植物群落として、単一群落 24 群系 95 群落、群落複合 5 タイプ 11 群落を報告した。しかし、ここでは、田中 (2006) による神奈川県レベルでのレッドデータ植物群落の情報を基礎にしたため、県内で丹沢のみに分布する植物を優占種とする植物群落という観点などは抜けている。

勝山ほか (1997) の「丹沢山地にのみに分布するもの」を参考にすれば、フガクスズムシ群落やヒナチドリ群落、ギンバイソウ群落、ヤグルマソウ群落、シウリザクラ群落、キバナウツギ群落など、勝山ほか (2007a) の「シカの採食により減少が著しい希少種」を参考にすれば、ハルナユキザサ群落やノビネチドリ群落、ヒカゲミツバ群落、クガイソウ群落、カニコウモリ群落など、それぞれ優占群落を形成するかは別とし、補うべき必要があり、今後の課題としたい。

本文中でも個々に言及したが、丹沢のレッドデータ植物群落を考える上で、特に憂慮すべきは、大気汚染による

表 5. 鬼ヶ岩の岩上植生.

通し番号	1	2	3	Reference number
調査番号	NTA	NTA	NTA	Original relevé number
	12	13	14	
調査年月日	2004	2004	2004	Relevé date
	6	6	6	
	16	16	16	
海拔高 (m)	1550	1550	1560	Altitude(m)
斜面方位	SW	S	SW	Aspect
斜面傾斜 (°)	10	25	40	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	1.44	1	3	Relevé size (m ²)
草本層の高さ (m)	0.15	0.15	0.15	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	30	40	70	Cover of herb layer (%)
出現種数	14	11	7	Numer of species

ハコネコメツツジ	1・2	2・3	3・3	<i>Rhododendron tsusiophyllum</i>
シモツケ	1・2	1・2	+	<i>Spiraea japonica</i>
ツクバズゲ	+	+	+	<i>Carex blepharicarpa</i> var. <i>stenocarpa</i>
ヒメノガリヤス	+	+	+	<i>Calamagrostis hakonensis</i>
コイワザクラ	+	+	+	<i>Primula reinii</i>
シモツケソウ	2・3	・	1・2	<i>Filipendula multijuga</i>
イワキンバイ	1・2	1・2	・	<i>Potentilla dickinsii</i>
キヌタソウ	+	+	・	<i>Galium kinuta</i>
キンレイカ	+	+	・	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>
イワニンジン	+	+	・	<i>Angelica hakonensis</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no. 1: クロテンコオトギリ *Hypericum hakonense* var. *imperfalatum* +, トウゴクミツバツツジ *Rhododendron wadanum* +, フジイバラ *Rosa fujisanensis* +, リュウノウギク *Dendranthema japonicum* +; no. 2: リョウブ *Clethra barvinervis* +, サラサドウダン *Enkianthus campanulatus* +, no. 3: ベニバナツクバネウツギ *Abelia spathulata* var. *sanguinea* 2・2.

表 6. ユーシン沢の岩上・岩隙植生.

通し番号	1	2	3	4	Reference number
調査番号	TAZ	TAZ	TAZ	TAZ	Original relevé number
調査年月日	1997	1997	1997	1998	Relevé date
	10	10	10	8	
	7	7	7	24	
海拔高 (m)	650	650	650	700	Altitude(m)
斜面方位	NE	NE	NE	N	Aspect
斜面傾斜 (°)	80	90	90	85	Slope (degree)
調査面積 (m ²)	4	1	6	1	Relevé size (m ²)
低木層の高さ (m)	-	1	-	-	Height of shrub layer (m)
低木層の植被率 (%)	-	20	-	-	Cover of shrub layer (%)
草本層の高さ (m)	0.25	0.6	0.1	0.15	Height of herb layer (m)
草本層の植被率 (%)	20	10	30	20	Cover of herb layer (%)
出現種数	15	13	12	17	Numer of species

ヒツノバシヨウマ	H	1・2	1・2	2・3	1・2	<i>Astilbe simplicifolia</i>
ウラハグサ	H	1・2	+	+	+・2	<i>Hakonechloa macra</i>
ホトギス	H	+	+・2	1・2	+	<i>Tricyrtis hirta</i>
タチツボスミレ	H	+	+	+・2	+	<i>Viola grypoceras</i>
ダイモンジソウ	H	・	+・2	1・2	1・2	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>incisolobata</i>
イヌヨモギ	H	+	+	・	・	<i>Artemisia keiskeana</i>
クロテンコオトギリ	H	+	・	・	+	<i>Hypericum hakonense</i> var. <i>imperfalatum</i>
ハコネハナヒリノキ	H	+	・	・	1・2	<i>Leucothoe grayana</i> var. <i>venosa</i>
ケイワタバコ	H	・	1・2	+	・	<i>Conandron ramondtioides</i> var. <i>pilosum</i>
イワデンド	H	・	+・2	1・2	・	<i>Woodsia polystichoides</i>
クサコアカソ	H	・	+・2	+・2	・	<i>Boehmeria gracilis</i>
ヒメウツギ	S	・	+・2	+・2	・	<i>Deutzia gracilis</i>
ヤハズハハコ	H	・	+	+・2	・	<i>Anaphalis sinica</i>
シラヒゲソウ	H	・	・	+	+	<i>Parnassia foliosa</i> var. <i>nummularia</i>

出現 1 回の種 Additional species occurring once in reference no. 1: エゾノヒメクラマゴケ *Selaginella helvetica* H-1・2, ヤマミズ *Pilea japonica* H-1・2, ミツデウラボシ *Crypsinus hastatus* H+・2, キハギ *Lespedeza buergeri* H+, ノコンギク *Aster ageratoides* var. *ovatus* H+, ハナゼキシヨウ *Tofieldia nuda* H+, ヒメノガリヤス *Calamagrostis hakonensis* H+, リョウブ *Clethra barvinervis* H+; no. 2: タマアジサイ *Hydrangea involucrata* S-1・2, クマヤナギ *Berchemia racemosa* S+, ヤマムグラ *Galium pogonanthum* var. *pogonanthum* H+; no. 3: アカシヨウマ *Astilbe thunbergii* H+; no. 4: イワシヤジン *Adenophora takedae* H+・2, オサシダ *Blechnum amabile* H+・2, ヤマブキシヨウマ *Aruncus dioicus* var. *tenuifolius* H+・2, イワニンジン *Angelica hakonensis* H+・2, タマアジサイ *Hydrangea involucrata* H+, リンドウ *Gentiana scabra* var. *buergeri* H+, タテヤマギク *Aster dimorphophyllus* H+, イヌシダ *Dennstaedtia hirsuta* var. *hirsuta* H+, クジャクシダ *Adiantum pedatum* H+.

林冠木の枯死や、ニホンジカの過度の採食による林床植生の変質など、近年の群落構造や種組成の変化が大きく、今後も予断を許さないことである。丹沢の自然環境の保全、回復については、前回の丹沢大山自然環境総合調査を受けて策定された「丹沢大山保全計画」により、さまざまな対策が実施されてきた。しかし、長い年月を経て形作られてきた自然環境が、短期間で回復する訳もなく、今回の総合調査の結果に基づいた「丹沢大山自然再生基本構想」を受けた「丹沢大山自然再生計画」により、今後もより良い丹沢の自然環境の再生を目指し、明確な手法によるモニタリングと確実な対策が取られる必要がある。

本報告をまとめるにあたり、田中 (2006) 同様、多くの方々の既報の資料を活用させて頂き、財団法人国際生態学センターの村上雄秀専門研究員、鈴木伸一主任研究員、林俊則研究員、矢ヶ崎朋樹研究員の今回の丹沢大山総合調査における資料も参考にさせて頂いた。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男専門学芸員には、丹沢の植物相について貴重な情報をご教示頂いた。記して感謝の意を表したい。

文 献

安藤彰則・鈴木伸一・村上雄秀, 2007. 東・西丹沢の植生比較－丹沢東西モニタリングエリアの植生－. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財) 平岡環境科学研究所.

平吹喜彦・持田幸良・富野美子・遠山三樹夫, 1992. 丹沢札掛のモミ林, 現況とその遷移. 天然記念物総合診断報告書 第 2 報, pp.51-113.+5pls. 神奈川県教育

委員会, 横浜.

星直斗, 1999. 丹沢山地におけるイヌブナ林の種組成と分布. 植生学会誌, 16: 13-25.

星直斗・山本詠子・吉川菊葉・川村美岐・持田幸良・遠山三樹夫, 1997. 丹沢山地の自然林. 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp.175-257. 神奈川県環境部, 横浜.

和泉良司・遠山三樹夫, 1987. 神奈川県にみられるモミ自然林の植物社会学的研究. 横浜国立大学教育学部理科教育実習施設研究報告, (4): 21-58.

神奈川県編, 1978. 第 2 回自然環境基礎調査 特定植物群落調査報告書. 155pp.+別冊追補版. 神奈川県, 横浜.

神奈川県農政部林務課編, 1991. かながわの美林 50 選. 107pp. 神奈川県, 横浜.

神奈川県自然保護協会編, 1989. 特集・かながわの美林 50 選. かながわの自然, (51): 1-18. 神奈川県自然保護協会, 横浜.

神奈川県植物誌調査会編, 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1580pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

環境庁編, 1988b. 第 3 回自然環境基礎調査 特定植物群落調査報告書, 生育状況調査 (神奈川県). 61pp. 環境庁, 東京.

環境庁自然保護局, 1978. 特定植物群落調査. 環境庁自然保護局編, 第 2 回自然環境基礎調査要綱, pp.1-33. 環境庁, 東京.

環境庁自然保護局生物多様性センター編, 2000. 第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書.

- 213pp. 環境庁自然保護局生物多様性センター, 山梨.
- 環境省生物多様性センター, 2005. 生物多様性情報システム, 基礎調査データベース検索 第5回特定植物群落調査. 環境省生物多様性センター. online. Available from internet: http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_f.html (downloaded on 2005-3-18).
- 勝山輝男・木場英久・田中徳久, 2002. 山北町の植物. 山北町編, 山北町の自然, 山北町史別編. pp.188-265. 山北町, 山北.
- 勝山輝男・高橋秀男・城川四郎・秋山守・田中徳久, 1997. 種子植物・シダ植物. 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp.543-558. 神奈川県環境部, 横浜.
- 勝山輝男・田村淳・田中徳久, 2007a. 丹沢の維管束植物相. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所.
- 勝山輝男・田村淳・田中徳久, 2007b. 丹沢の維管束植物相. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書 丹沢大山生物目録. (財)平岡環境科学研究所.
- 勝山輝男・田中徳久・木場英久・神奈川県植物誌調査会, 2006. 維管束植物. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006. pp.37-130. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 宮脇 昭 編著, 1986. 日本植生誌 関東. 641pp., 別冊表, 着色植生図. 至文堂, 東京.
- 宮脇 昭・青砥航次・青砥雄子・藤原一繪・古谷マサ子・浜田丈夫・原田 洋・井上香世子・梶山三千男・川村優子・他, 1972. 神奈川県の実存植生. 789pp., 別冊表, 着色植生図. 神奈川県教育委員会, 横浜.
- 宮脇 昭・藤原一繪・原田洋・楠直・奥田重俊, 1971. 逗子市の植生. 151pp., 別冊表, 着色植生図. 逗子市教育委員会, 逗子.
- 宮脇 昭・大場達之・村瀬信義, 1964. 丹沢山塊の植生. 国立公園協会編, 丹沢大山学術調査報告書, pp.54-97.+ 別冊表. 神奈川県, 横浜.
- 宮脇 昭・大場達之・村瀬信義, 1969. 箱根・真鶴半島の植生調査報告書. 59pp.+12pls., 別冊表, 着色植生図. 神奈川県教育委員, 横浜.
- 宮脇 昭・佐々木寧・小林良, 1982. 厚木市の植生. 153pp.+ 付表, 着色植生図. 厚木市, 厚木.
- 村上雄秀, 2005. 丹沢山地におけるシカ食害による偏向遷移について. 日本生態学会関東地区会会報, 54: 7-19.
- 村上雄秀・中村幸人, 1997. 丹沢山地における動的・土地的植生について. 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp.122-167. 神奈川県環境部, 横浜.
- 村上雄秀・中村幸人, 2006. 丹沢山地におけるシカ食害による偏向遷移について. 第53回日本生態学会大会講演要旨集, p.308.
- 村上雄秀・鈴木伸一・林 寿則・矢ヶ崎朋樹, 2007. 丹沢大山の植生—シカ影響下の植物群落—. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所.
- 中川重年, 1982. 神奈川県中津川のサツキについて. 神奈川県林業試験場研究報告, (8): 65-71.
- 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編, 1996. 植物群落レッドデータ・ブック. 1344pp. アボック社出版局, 鎌倉.
- 大場達之, 1985. 維管束植物による相模川流域の環境評価Ⅱ・植生. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (16): 45-82.
- 大場達之, 1988. 4. 現存植生. 相模原市教育委員会編, 相模原市の植生, pp.107-203.+ 付表, 着色植生図. 相模原市教育委員会, 相模原.
- 大場達之, 1991. 丹沢中津川溪谷の植生. 日本自然保護協会報告書第73号, 自然教育活動のための宮ヶ瀬自然環境基礎調査報告書, pp.46-65. 日本自然保護協会, 東京.
- 大野啓一・尾関哲史, 1997. 丹沢山地の植生(特にブナクラス域の植生について). 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp.103-121., 着色植生図. 神奈川県環境部, 横浜.
- 奥田重俊, 1997. 愛川町の植生. 愛川町教育委員会編, 愛川町の植物, pp.61-104.+ 着色植生図. 愛川町教育委員会, 愛川.
- 田村 淳・入野彰夫, 2003. 神奈川県新産のテツカエデ. 植物地理分類研究, 51: 75-76.
- 田村 淳・勝山輝男. 2007. シカの採食圧の異なる東西丹沢における林分構造と林床植生の差異. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所.
- 田中徳久, 1999a. 神奈川のサツキ群落. 神奈川自然誌資料, (20): 103-108. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 田中徳久, 2006. 植物群落. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物報告書 2006. pp.167-212. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 遠山三樹夫・坂井 敦, 1993. 神奈川のブナ林. 60pp. かながわ森林財団, 横浜.
- 和田有紀子・富野美子・遠山三樹夫, 1992. 大山の原生林. 天然記念物総合診断報告書 第2報, pp.1-49.+1pl. 県教育委員会, 横浜.